



学校だより

3月号



～自分大好き 友だち大好き 共に学ぶ子 実践する子～
<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/morinodai/>

みのる こうべ たれる いなほ
 実るほど 頭を垂れる 稲穂かな

～～ 活けし梅 一枝強く 壁に触る ～～

校長 ぬかりや たかし
 忽滑谷 隆

春が待ち遠しくなる今日この頃ですが、報道でもご存じの通り、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月3日～13日まで横浜市の学校は一斉臨時休校となり、19日の卒業式も6年生だけで行うなど厳しい状況です。

3月、4月は、出会いと別れの季節になります。3月には、今までお世話になった人に、感謝の気持ちを込めてお礼を言い、そして4月には、新しい人との出会いを大切にしていきたいと思っています。

さて、季節はちょっと違いますが、「^{みのる}実るほ

ど^{こうべ たれる いなほ}頭を垂れる稲穂かな」という言葉があります。稲の穂は身が入ると重く垂れさがってくる。学問や得業が深くなればなるほど、かえって他人に対して謙虚になることのたとえです。また、作家の吉川英治は、「我以外皆我師」という言葉を残しています。この言葉は、自分以外の人を「人生の師」と考えれば、おのずと謙虚に接することができ、「謙虚に学び続けること」の大切さを教えてくれています。

子どもたちは、毎日、先生や友達と勉強や遊びなど、学校生活を楽しく元気に過ごしています。そして、自分たちの周りに、この楽しい生活を支えてくれている、多くの人たちがいることを、成長するにつれて気づいていくと思います。

家族、地域の方々、先生をはじめ学校で働く

人たちなど、数えきれない人たちにお世話していただき、自分たちは、楽しい生活を過ごすことができているという、感謝の気持ちをしっかりと意識してほしいと思います。

森の台小学校の子どもたちにも、しっかりと学習し、人間関係作りの勉強もし、成長していく中で、偉そうにしていくのではなく、周りの人に感謝し、いつでも謙虚に学び続ける心を持ち続けてほしいと思っています。

そして、これからの長い人生の中でも、多くの「別れ」と「出会い」があると思います。

その人たちから学んだ多くのことに感謝し、そのすべての人たちの小さな助けや親切、愛情の上に自分たちの生活があることに気づき、謙虚に感謝できる人になってほしいと思います。

さあ、6年生は、いよいよ森の台小学校を巣立っていきます。「立つ鳥跡を濁さず」というように、森の台小学校の卒業生として、きれいな森の台小学校から、跡を濁さず、きれいに飛び立って行ってほしいと思います。そして、卒業生のみなさんが作ってきた素晴らしい伝統を、在校生のみなさんには、しっかりと受け継いで行ってほしいと思います。

6年生、卒業生のみなさん、森の台小学校の伝統を支えてきてくれて、ありがとうございます。1年生から5年生の在校生のみなさんは、この素晴らしい伝統を、きちんと引き継ぎ、4月からも、頑張っていきましょう。

